



創立149年

石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学ぶ子 とを大切に**する子

坂本小だより 令和5年 5月号

児童数592名 (24クラス)

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

子どもたちがしなやかにたくましく『自立への道』を歩むために…

～あなたが転んだことに関心はない そこから立ち上がることに関心があるのだ～ リンカーン

これは「人民の 人民による 人民のための政治」という民主主義の本質を表した有名な言葉を残したアメリカ合衆国16代大統領『リンカーン』の言葉です。つまり、「うまくいかなかったことや失敗してしまったことをあれこれと考えるのではなく、それをどう乗り越え、リカバリーしていくかが重要であり、大切にすべき心構えだ」ということではないでしょうか。私はこの考え方が好きで、これまで、そしてこれからも、何か有事が起こったときにいつもこの考え方を大事にしようと思っています。

前任校で勤務しているときに前触れもなく訪れた、避けて通れない出来事が新型コロナウイルスの流行でした。突然の休校やその後の行動制限等の大きな変化が押し寄せ、これまで通りの学校生活が送れなくなり、子どもたちにどんな影響が出るのか手探り状態の日々を送ることを余儀なくされました。そんな時にもリンカーンの言葉をかりて「コロナの流行に関心はない それを乗り越えることに関心があるのだ」と自分自身に言い聞かせて、どうやって学校生活を充実させようかとワクワクしながら(不謹慎な表現ですが)考えていました。困難に直面したからこそ、臨機応変に対応することで、学校として、チームとしてさらなる力がつくと考えたからです。

そんな思いを持つ私は、今年4月の入学式の式辞で保護者の方々にこんな話をしました。

「子どもたちは、小学校という小社会の中で、たくさんのそして複雑な課題に直面し、多くの困難を乗り越えることで世の中をしなやかに、そしてたくましく生き抜く力をつけていきます。それを支えるための我々の役目は、他人と比較して安心したり焦ったりするようなことではなく、次々と困難を取り除いて挙げることでなく、我が子のそしてその友達の長所や伸びに目を向けてあげることです。そういう大人に囲まれた子どもたちは、きっと自信に満ち溢れ自分を取り巻く友達や学校・地域が大好きになるはずで、私はそれこそが、子どもたちが世の中を生き抜く力を持つための原動力になると確信しています。」

ここで伝えたかったことは、子どもたちが転ぶのを防ぐのではなく、子どもの行動を信じて見守り、時には子どもがつらく思う出来事にも、グッとこらえる愛情も大切だということです。我々大人の「子どもから好かれたい」「子どもを守りたい」「いい先生(親)でありたい」という一時的な感情から、心配しすぎて何でもしてあげたり、子どもがつらいと思うことを手助けしたり、子どもが何か物事を始める際に「失敗しないように」と口を挟んだりするのはなく、失敗したときに周りの人が支えてくれることへの感謝の気持ち、次に同じ失敗しないようにするにはどうすればいいのかなど、立ち上がるために必要な心構えを学び、成長していけるようにすることこそが大切だと思うのです。子どもは大人から信頼されることで安心感が生まれ、理解されることで信頼感を持てるようになり、任されることで責任感と肯定感が芽生えるといわれます。つらいことや不安なことがあると、すべて大人が助けてくれるという感覚を持たせないように、子どもを信頼し、任せるという意思を示すことが大切です。

誰しも生きていれば困難に直面するし、失敗や挫折することはあたりまえです。だから、そのこと自体には全く問題がありません。大切なのはその時にどう考えるか、その後でどんな態度を取るかが重要です。子どもたちには、転んだ後、諦めたり、ひねくれたり、他人のせいにしたたり、いじけたりするのではなく、何度転んでも決して諦めることなく立ち上がろうとする態度を取ってほしいと思うのです。行事や学習等、子どもたちが活躍する場面が本格的にスタートする5月以降、甘やかし過ぎたり突き放しすぎたりしないで、子どもたち自身が自力解決できるかできないか、50/50(フィフティフィフティ)のラインを見極めて上手に導いてチャレンジさせる。たとえ失敗したとしても上手いかなかったとしても歩んだ過程をしっかり認める。そんな関わりを積み重ねて自立した子どもたちを育てていきたいと思えます。是非ともよろしくお願ひします。

校長 上島 憲一

〈5月、6月の主な学校行事(5/1 現在)〉 変更になることもあります。

--	--

お知らせ (5類感染症に移行する新型コロナ等について)

5月からの教育活動について

厚生労働省の決定によって、5月8日からは「新型コロナ」が『5類感染症』に位置づけられることとなり、季節性のインフルエンザ同様の扱いとなります。外出自粛等の要請もなくなり療養期間の目安も5日間程度となります。つまり、制度的(法的)には平常時に戻るといえます。とはいえ、ウィルスが消えてなくなったわけでもなく、感染者数も今月に入って増加傾向、「GW明けには第9波も」との予測もされています。

そのような状況の中、緩やかに本校の教育活動を平時に戻していきます。5月の参観(リレー大会;雨天時は教室参観)や音楽会に向けての取組等も制限を少なくしていく計画です。また、4月まで続けていた毎日の個人健康観察票(通称;青カード)も5月からは取りやめて通常健康観察(学級毎)のみにします。青カードはなくなりますが、もちろん各ご家庭での健康チェックで気になる場合は無理な登校等の無いようにお願いします。

<4月の様子>

<入学式前日準備>

新6年生が進んで動いてくれる姿を見て、とても頼もしく思いました。これからの1年間をこの子達に任せたいと思いました。



<入学式>

122名のピカピカの1年生が入学しました。園で年長としていろいろなことにチャレンジしていた頼もしい子どもたちですから、その力を存分に伸ばせるよう全力で支えていきたいと思っています。



<日吉山王祭>

4年ぶりに完全な日程で開催されました。中には大役をもらった児童や卒業生もいて、しっかり地域に貢献していました。



<避難訓練>

「普段からどのように備え、実際に災害が起こったら何をすればよいか」について考え、いざというときに、自分と友だちの命を守る行動を自ら取ることが出来る子どもたちであってほしいと思います。

<学年集会>

学級開きと同様に、この時期には多くの学年が集会を開き、学年担当の先生の自己紹介や大切にしてほしいこと、クラス担任だけでなく、学年の先生や教務の先生の話は、同じように聞かなければならないことなどを伝えています。



<学業調査>

学力の一部分を知る調査ですが、我々が子どもたちの学習状況をつかみ、昨年度までの取組をふり返って今後の指導に役立てます。子どもたち自身が自分の得手不得手を知って自らの学習に生かせることが理想です。

<学校にも慣れてきました>

入学した1年生も少しずつ学校に慣れてきました。先生の話をしっかり聞く様子やおかわりしながら楽しそうに過ごす給食時間、身体測定や視力検査も行儀よくできました。何より学校にいる時間も長くなって休み時間も元気に遊んでいます。



<漢字学習>

今年度も「読み優先の漢字学習」に取り組み、漢字の力はもちろん、読書力や友だち同士で隠せずコミュニケーションできる力へとつなげます。